

オペラ
Romeo will juliet
ロミオがジュリエット

第21回サントリー芸術財団佐治敬三賞・第76回文化庁芸術祭大賞受賞作品

シェイクスピアの名作をもとに
今、話題のAI(人工知能)が台本を書き起こした斬新なオペラ!

作曲 足立 智美

台本 GPT-2

(原作: ウィリアム・シェークスピア『ロミオとジュリエット』)

演出 あごうさとし

出演 太田真紀 (ソプラノ)

山田 岳 (ギター)

2023 11.18 土 17:00開演 (16:30開場) 11.19 日 14:00開演 (13:30開場)

高槻城公園芸術文化劇場 南館 B1 大スタジオ

一般 3,500円 高槻文化友の会 3,150円 学生 1,000円 (全席指定)

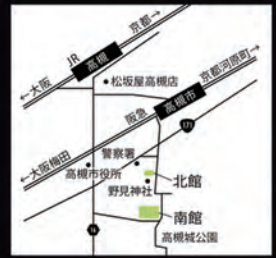
発売日	高槻文化友の会		ネット会員(登録無料)	一般	便利な電子チケットサービスもございます	
	Web	窓口・電話	Web	Web・窓口・電話	発売初日の受付開始	Web・窓口 10:00~ 電話 14:00~
	9/21(木)	9/28(木)	9/28(木)	10/4(水)		

チケット 高槻城公園芸術文化劇場 南館1F 〒569-0077 高槻市野見町6-8
販売場所 TEL.072-671-9999 (10:00~17:00/月曜休館※祝日の場合は翌日)

※未就学児童のご入場はご遠慮ください。
※チケット完売の場合、当日券は販売しません。
※団体割引(一般10枚以上)については、お問合せください。

主催: (公財) 高槻市文化スポーツ振興事業団 <https://www.takatsuki-bsj.jp/tat/>

(公財) 高槻市文化スポーツ振興事業団設立35周年



阪急「高槻市」駅より徒歩8分
JR「高槻」駅より徒歩13分



ロミオがジュリエット

本作は、主宰であるソプラノ歌手の太田真紀、ギタリストの山田岳のわずか二人の演奏(play)による、ミニマルなオペラ作品です。シェークスピアの「ロミオとジュリエット」を題材に、作曲の足立智美が、GPT-2という文章作成AIを駆使し、新たなロミジュリとしてのテキストを創作。その、不条理な独特の詩情を内包したテキストに、音が与えられています。

この音楽は、ジョン・ダウランドを彷彿とさせる16世紀的なリュートの美しい調べから、20世紀的なロック・メタル・電子音楽まで幅広い音楽の世界が縦横無尽に展開されます。

演劇の視点からは、シェークスピア作品がAIと足立により歴史的な文脈を捉えた今日的な構成に仕立てられたことに呼応するべく、サミュエル・ベケットの種々の演劇的手法を引用して、本作で展開される音楽と文学の相似形として造形しています。

短い文章では語り得ぬ試みを、太田と山田の芸術的叡知と超絶技巧によって、余すことなく表現されます。この稀有なオペラ作品をぜひ生でご覧ください。新しくなった高槻城公園芸術文化劇場にて、再演される感謝と共に、皆様のご来場を心よりお待ちしております。

演出 あごうさとし

演目 PROGRAM

オペラ《ロミオがジュリエット》ソプラノ、ギター、電子音響のための (2021)

Romeo will juliet, opera for a soprano, a guitarist and electronic sounds

全9場・原語上演 (英語)

[第21回(2021年度) サントリー佐治敬三賞、令和3年度 (第76回) 文化庁芸術祭賞 音楽部門 大賞 受賞作品]

作曲 COMPOSER

足立 智美 Tomomi Adachi

作曲家、パフォーマー、詩人。声、コンピュータ、自作楽器によるソロ演奏を始め幅広い領域で活動し、ヤープ・ブロンク、坂田明、ジェニファー・ウォルシュ、高橋悠治、一柳慧、伊藤キム、コンタクト・ゴンズ、猫ひろしらと共演、また非音楽家との大規模なアンサンブルのプロジェクトもおこなう。作品には自作のフィジカル・インターフェイス、ツイッター、脳波から人工衛星、テレパシー、骨折までを用い、ハンブルガーバンホーフ美術館、テート・モダン、ポンピドゥー・センター、ベルリン芸術アカデミーなどで公演。ドイツ国营ラジオ、ノイエ・ボーカルゾリステン・シュトゥットガルト、東京現音計画等より委嘱。2009年ACCグランティとしてニューヨーク滞在。DAADより2012年ベルリン滞作曲家としてドイツに招聘、同年ベルリン・メルツ・ムジーク現代音楽祭で個展を開催。詩人としてもベルリン・ポエジー・フェスティバル、ルイジアナ文学祭などに招聘されている。2019年アルス・エレクトロニカ(オーストリア) デジタルミュージック&サウンドアート部門、Award of Distinction受賞。http://www.adachitomomi.com/

演出 DIRECTOR

あごうさとし Satoshi Ago

劇作家・演出家。大阪府出身。80年代後半から90年代にかけて香港で過ごす。同志社大学法学部卒業。広告会社でコピーライターとして勤務後の2001年、WANDERING PARTYの旗揚げに参加。第3回公演以降、全ての作品の作・演出をつとめる。2011年劇団解散後は、法哲学者仲正昌樹と共に、「複製」「純粋言語」を主題に、有人、無人の演劇作品を創作している。平田オリザ氏が手がけるロボット演劇のロボットオペレーターとしての活動も加わる。2014-2015年、文化庁新進芸術家海外研修制度研修員として、3ヶ月間、パリのジュヌヴィリエ国立演劇センターにおいて、演出・芸術監督研修を受ける。美術作家のやなぎみわ、森村泰昌や法哲学者の仲正昌樹との共作も多数。2017年1月、一般社団法人アーツシード京都を設立。2019年6月、同法人が運営するTHEATRE E9 KYOTO開館、芸術監督として劇場を運営する。同志社女子大学嘱託講師、大阪電気通信大学非常勤講師。第39回(令和2年度)京都府文化賞奨励賞、同年第7回京信・地域の企業家アワード優秀賞、平成29年度京都市芸術新人賞ほか、受賞多数。

出演 PERFORMERS

太田真紀 & 山田岳 Maki Ota & Gaku Yamada

ソプラノ太田真紀とギター山田岳により2013年よりデュオ活動を開始。それぞれがソロとして活動しつつ、この編成におけるデュオ作品の「今」を追求。既存作品の演奏のみならず、新作委嘱や実験的要素の強い作品まで数多く紹介。独自のプログラミングで注目を集める。近年は多彩なゲストを迎えたアンサンブル編成でのコンサートに取り組み、2018年3月には、マウリシオ・カーゲルの歴史的事業作《ACUSTICA》を、世界的にも初めてというべき規模で上演を果たした。これまでに7回の主催公演を行い、松平頼暁、宗像礼、足立智美への委嘱や、伊左治直、志田笙子らの初演(改定初演)、海外作曲家作品の日本初演等を行っている。2021年、足立智美作曲のオペラ「ロミオがジュリエット」にて第21回サントリー芸術財団佐治敬三賞、第76回文化庁芸術祭賞・音楽部門大賞を受賞。